


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2019年 11 月 24 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	義村 弘仁

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
鹿児島県、屋久島	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
屋久島実習	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
2019年 11月 16日 ~ 2019年 11月 23日 ( 8日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学 PWS ハウス屋久島	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回の屋久島実習では、京都で行う分析実習のためにヤクシカの糞をサンプリングした。ヤクシカでは繁殖期になぜかオスシカにおいても糞中から高いレベルのプロジェステロン(P4)が検出されている。この理由を探るためには、まず糞中のP4が体内のP4をモニタリングするのに適しているかを確認する必要がある。すでにP4については時間とともに分中での濃度が増加することが知られており、そのため新鮮糞を用いることが必須となっている。しかし、P4の代謝物の一つであるPdGについては調べられておらず、より時間に影響を受けにくい指標となる可能性がある。また、糞中でのP4とPdGの比率を調べることでどちらがより体内のP4を反映しているのかを調べることも今回の目的である。PdGの時間による濃度変化を調べるために、ヤクシカを個体追跡し新鮮糞を採取後すぐに冷蔵した。その後ステーションにてリターの上に糞を置き、一定時間経過ごとに取り出し、冷凍保存した。分析実習においてそれぞれの時間での糞中PdG濃度を調べることで排泄からの時間経過による影響を明らかにする。</p> <p>また、様々な年齢クラス(成体オス・メス、1~2歳オス・メス)の新鮮糞も採取し、PdGとP4の比率を調べる。</p> <p>今回の実習が初めての屋久島渡航であったため、島の急峻さや海的美しさ、ヤクシカとヤクザルの西部林道での密度に驚かされた。また、本実習は各国からの招聘者とともに行う実習であるため、海外の学生たちとも交流することができた。ヤクシカはヤクザルほど接近できず、特にメスは年齢推定も難しかったが、追跡している途中に仔鹿への授乳やオス同士の喧嘩も観察することができた。ニホンザル以外の野生動物を個体追跡するのも初めての経験であったため、野生動物研究の難しさと魅力も改めて感じた。最終日に飛行機が欠航し、急遽帰京予定を変更する等のトラブルはあったものの非常に充実した8日間であった。</p>	
	
図 1:ヤクザルの DNA 採取の様子	図 2:休息するヤクシカ
<b>6. その他</b> (特記事項など)	